# 国　　語

（解答番号 1 ～ 38 ）

※国語は「経済経営学部」「人文学部」および「健康医療学部」は必須。
「バイオ環境学部」は選択。

## 一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本の都市には、住宅であればワンルームマンション、宿泊施設であればカプセルホテル、飲食店であれば半個室型ラーメン店、娯楽施設であれば漫画喫茶など、〈ひとり空間〉の種類や数が豊富にある。ここでいう〈ひとり空間〉とは、何らかの仕切りによって帰属集団から一時的に離脱し、匿名性が確保された空間を指す。さらに近年は、ひとりカラオケ店やひとり焼肉店などの「ひとり〇〇店」という業態が台頭するようになった。

ひとり〇〇店が台頭した背景には、晩婚・非婚・離婚による単身者の増加に加え、「集団規範のa―ケイエン」「時短消費」「隙間時間の活用」などが挙げられる。カラオケであれば、上司が歌を歌っている時に手拍子を打つことを求められ、歌の順番待ちをしなければならないかもしれない。焼肉であれば、焼肉ア―奉行がいて、自由に肉を焼かせてくれないかもしれない。そんな集団規範をわずらわしいと感じる人たちにとって、ひとり〇〇店は自分のペースでカラオケや焼肉を好きなだけ楽しむことができる店として受け入れられるようになった。

またインターネットの浸透にともない、必要な情報やモノは検索によって時間をできるだけ短くして手に入れたいという欲求が高まるようになった。スマートフォンやソーシャルメディアの普及は、移動しながら友人や知人との細かな時間単位での調整を可能にし、その分、イ―隙間時間も多く生まれるようになった。ひとり〇〇店は、これらを背景とした「時短消費」や「隙間時間の活用」の受け皿ともなっている。カラオケや焼肉といえば、従来は家族、友人、同僚などの集団で楽しむコンテンツだったが、A―ひとり〇〇店の台頭には、「集団的なものの個人化」という傾向を見てとることができる。

ひとり〇〇店を含む、日本の都市に見られる〈ひとり空間〉の特徴を二つ挙げるならば、一つ目は一時的な利用のため一定の金額を支払うことが求められる商業空間、すなわち「課金空間」が多いこと。二つ目は、視線をさえぎるための仕切りが設けられていることである。

一つ目の特徴は、裏を返せば、日本の都市では、公園や広場などの公共空間において「ひとり」でいることに、どこかウ―居心地の悪さがつきまとうことと関係している。平日の昼間に公園で「ひとり」でいる中年男性が、ママさんグループから不審者扱いされ、警察に通報されたというニュースを耳にしたことのある人もいるだろう。日本の都市においては公共空間に「ひとり」の

居場所が少ないがゆえに、お金を支払うことによって、そこに安心していることのできる権利を買う〈ひとり空間〉が集積しているともいえるかもしれない。

そして二つ目の特徴にあるように、これらの〈ひとり空間〉の多くは衝立などの仕切りを有している。日本の住まいには古くから障子、ふすま、簾などの可動性のある仕切りが設けられてきた。仕切りは他者からの視線をシャダンするための装置である。他者から見られているということを意識せずに済む。このように一つ目と二つ目の特徴は連関している。

コロナ禍以前のことだが、在外研究のため、オランダのデルフトに一年、ロンドンに半年、ニューヨークに半年の計二年間ほど海外で暮らしていたことがある。欧米の都市を一括りにはできないが、滞在時、レストランやカフェなどの飲食店において仕切りを目にする機会はなかった。公園や広場には、「ひとり」の人が大勢いた。より精確にいえば、「ひとり」の人もいれば、それ以上のグループも、人数にかかわらず、公共空間をリビングの延長のようにして、思い思いに過ごしていた。

よく知られているように、欧米では基本的に靴のまま土足で家の中に入るのに対し、日本では玄関で靴を脱いでから家の中に入る。このことは家の外部である公共空間もリビングの延長のように捉える欧米人の感覚と部分的につながっているだろう。

（　　i　　）、日本人は家の内と外を線引きし、家の内を私的空間、家の外を公的空間に切り分ける。このことは公園や広場などの公共空間において、きちんと振る舞わなければならないという規範意識と結びつき、それらを自由に使いこなし、自分たちの居場所にすることが十分にできていないという要因のひとつにもなっていると考えられる。公共空間に「ひとり」の居場所が少ないことと、日本の都市では商業空間としての〈ひとり空間〉が多いことは表裏の関係にある。

とりわけロンドンやニューヨークには多種多様な人種の人びとが生活しており、服装ひとつとっても、それぞれに違いがある。それに対し、日本人は相対的に同質性が高いとされる。同質性が高くなると、他者の微細な差異に敏感になりやすい。このことは他者の視線を気にする日本人の心性と無縁ではなく、日本の〈ひとり空間〉において、視線をさえぎるための仕切りの多さの要因のひとつになっているだろう。

（　ii　）、〈ひとり空間〉とは、目に見える仕切りを持った物理空間としてのみあるわけではない。それは目に見えない仕切りを持つかたちで情報空間上にも広がっている。たとえばスマートフォンを利用する時には、目に見えない仕切りを立ち上げ、周囲から「離脱」し、情報空間上の〈ひとり空間〉にいると捉えることができる。かつて日本のソニーが発明したウォークマンも、音楽を聴いて〈ひとり空間〉に身を置きながら移動するためのモバイル・メディアである。

〈ひとり空間〉は、物理空間と情報空間が互いに入れ子になりながら重層的に広がっている。そもそも〈ひとり空間〉に限らず、私たちは日常生活において、空間とメディアが互いに重なり合った状態を経験している。（　iii　）、スマートフォンのアプリで目当ての場所を探しながら道を歩く時、私たちはスクリーンに映し出された情報に左右されながら、物理空間での振舞いや次なる行動のあり方を決めている。

ここからは前置詞の違いに着目し、[c]空間とメディアの関係性を二つに分けて整理したうえで、コロナ禍の〈ひとり空間〉の変化について考えてみたい。

一つ目は“as”「メディアとしての空間」である。テレビやSNSなどだけがメディアなのではない。空間それ自体もメディアと見なすことができる。たとえば、国会議事堂は国の政治的な権威を示すメディアである。オフィスビルやタワーマンションは企業やオーナーの富や財力をコジ[c]するメディアである。ファッション店舗や飲食店は、店舗のコンセプトや流行などを映し出すメディアである。住居やそれぞれの部屋のインテリアも、そこに暮らす人びとのライフスタイルや趣味が反映されたメディアだといえる。

二つ目は“in”「メディアのなかの空間」である。これは雑誌、映画、テレビ、SNSなどにおける「空間の表象」のことである。たとえば、リオオリンピックの閉会式でヒロウ[d]された東京大会のPR動画には、渋谷スクランブル交差点、浅草寺の雷門、東京スカイツリーなど、東京を代表するランドマークの数々が登場した。オリンピックのマラソンコースも何を背景に映すか、言い換えるなら、何を見せるか・見せないかによって選定されており、これも「メディアのなかの空間」の表象を考慮した事例だといえる。さまざまなメディアにおいて、都市の何を見せ、何を見せないか。何を強調するか。これらのことは都市のイメージ形成やブランディング[オ]に深く関わっている。

（　ⅳ　）コロナ禍において、〈ひとり空間〉のあり方はメディアとの関係性においてどのように変化しただろうか。事例を挙げて考えてみよう。

一つ目の“as”「メディアとしての空間」に関しては、Ｚｏｏｍなどのオンライン・ミーティングを挙げたい。一般的に個室はプライヴェートな空間とされ、家族や友人・恋人など親密な間柄にある人しか立ち入ることはない。ところが、オンライン・ミーティングではビデオカメラの背景に、その人の個室が映し出される。オンライン・ミーティングでは初対面の人同士でも互いの個室を「覗（のぞ）き見る・覗き見られる」関係が生じる。社会学者のアーヴィング・ゴッフマンの言葉を借りれば、通常は「舞台裏」として隠されていた個室が「表舞台」となる、すなわち「舞台裏の表舞台化」が起きるようになった（『行為と演技――日常生活における自己呈示』石黒毅訳、誠信書房、一九七四年）。

二つ目の“in”「メディアのなかの空間」に関しては、散歩動画を挙げたい。コロナ禍で自宅の近隣を散歩する機会が増えた人も多いだろう。それと合わせてソーシャルメディア上に頻繁にアップされるようになったのは、スマートフォンやアクションカメラによる*Ｖｌｏｇなどの散歩動画である。これまで「ひとり」に閉じられていた散歩のうち、散歩中の独り言や街の景色の移り変わりがオンライン上で集団で共有され、[e]カンショウの対象となっていった。

オンライン・ミーティングに見られる個室という「舞台裏の表舞台化」と散歩動画ともに、従来は個人に閉じていたものが、集団に開かれていくという点が共通している。[D]これらには、「個人的なものの集団化」という傾向を見てとることができる。

ここまでのひとり〇〇店、オンライン・ミーティングと散歩動画の事例からもわかるように、[E]日本の都市およびコロナ禍の〈ひとり空間〉をめぐっては、「集団的なものの個人化」と「個人的なものの集団化」という相矛盾する傾向が生じている。なぜだろうか。

スマートフォンやソーシャル・メディアを通じて、常に誰かとつながっている「常時接続社会」は、趣味や好みを共有する「みんな」とつながりたいという「接続指向」と同時に、オンライン上で常に相互監視状態に置かれているストレスから逃れて「ひとり」になりたいという「切断指向」を生んだ。そこに加わったコロナ禍では、感染症対策の観点から、できるだけ人との接触を

避けて〈ひとり空間〉に身を置くことを強いられるようになったと同時に、対面・オンラインにかかわらず、「みんな」とコミュニケーションをはかりたいという欲求が高まることになった。

（　v　）、常時接続社会とコロナ禍が相まって、「ひとり」でいる状態と「みんな」でいる状態の選択可能性を希求する動きが強まったといえる。誰かとつながりたいがひとりにもなりたい、ひとりでいたいが誰かとつながってもいたいという人間の欲求が、日本の都市およびコロナ禍の〈ひとり空間〉における「集団的なものの個人化」と「個人的なものの集団化」という相矛盾する傾向の背後にある。

（南後由和「日本の都市の〈ひとり空間〉とコロナ禍の変化」より）

＊Ｖｌｏｇ…動画によるブログ

**問一**　傍線部ａ～ｅに相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、**1**～**5**。

ａ　ケイエン　**1**

① 新型コロナのケイコウ薬
② ケイアイされる人だった
③ 新聞のケイチョウ欄を見る
④ 荷物のケイリョウ化
⑤ 正しくケイリョウする

ｂ　シャダン　**2**

① シュシャ選択
② シャフツ消毒
③ シャコウ眼鏡
④ シャコウ辞令
⑤ シャジツ主義

c コジ 3

① ジダイ主義に流れる
② 権力をホジする
③ ジカ足袋を履く
④ ジセイの句を読む
⑤ 情報のカイジを求める

d ヒロウ 4

① ロジウラの店
② メイロウな性格
③ 理科室のロウト
④ 縁日のロテン
⑤ ロウドウの対価

e カンショウ 5

① 骨董品のカンテイ
② 首相カンテイ
③ 会計のカンサ役
④ 不利な条件をカンジュする
⑤ 同窓会のカンジ

**問二** 傍線部**ア**〜**オ**の本文中における意味は何ですか。最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、6〜10。

**ア** 奉行 6

① その場を仕切ろうとする人
② 上からの命令を実行する人
③ マナーに厳しい人
④ 暴れて手が付けられない人
⑤ 不正を行おうとする人

イ　隙間時間　7

① 休憩を取る時間
② 自由に遊べる時間
③ 連絡がつかない時間
④ 決められた短い時間
⑤ 空いている短い時間

ウ　居心地の悪さ　8

① 急かされて休まらない雰囲気
② その場にいる皆に嫌われているような雰囲気
③ 自分が異質と見られているような雰囲気
④ 何かを期待されているような雰囲気
⑤ 誰かに監視されているような雰囲気

エ　リビングの延長　9

① きれいな場所につながっている
② プライベートな場所につながっている
③ 広々とした場所につながっている
④ 開放的な場所につながっている
⑤ ルールのある場所につながっている

オ　ブランディング　10

① 特有の価値を付けること
② 特別な景色を見せること
③ ランドマークを作ること
④ 高級感を演出すること
⑤ 誰もが憧れるようにすること

問三　空欄（　i　）～（　v　）に入る最も適当な語を、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、（　i　）が 11 、（　ii　）が 12 、（　iii　）が 13 、（　iv　）が 14 、（　v　）が 15 。

11 （　i　）

① つまり　② おそらく　③ やはり　④ それに対し　⑤ あるいは

12 （　ii　）

① ゆえに　② 万が一　③ というのは　④ もし　⑤ ところで

13 （　iii　）

① たとえば　② また　③ このように　④ だが　⑤ いっぽう

14 （　iv　）

① いや　② ところが　③ でも　④ では　⑤ というのも

15 （　v　）

① わざわざ　② しかし　③ もしくは　④ それでも　⑤ すなわち

**問四**　傍線部A「ひとり〇〇店の台頭には、『集団的なものの個人化』という傾向を見てとることができる」とあるが、この背景について説明したものとして適当なものを、次の①～⑦のうちから**二つ**選びなさい。解答番号は、16・17（順不同）。

① スマートフォンなどの普及によって、移動しながらでも友人や知人と会話が出来るようになったために、ひとりで「ひとり〇〇店」を利用する機会が増えた。

② 従来集団で楽しむコンテンツだったものを自分のペースで楽しめる「ひとり〇〇店」は、集団規範をわずらわしいと感じる人に受け入れられるようになった。

③ インターネットの浸透に伴い、必要なものを短時間で手に入れたいという欲求が高まった結果、集団で楽しむコンテンツにわずらわしさを感じるようになった。

（次頁に続きます）

④　カプセルホテルや半個室型ラーメン店、漫画喫茶に入ることで、人は帰属集団から一時的に離脱し、自分のペースで過ごすことが出来る。

⑤　スマートフォンなどの普及によって細かな時間調整が可能になり、効率よく様々なコンテンツを楽しめるようになった。

⑥　スマートフォンなどによって細かな時間調整が可能になり、友人や知人との予定の間に生じた時間を「ひとり〇〇店」で活用する人がいる。

⑦　従来集団で楽しむコンテンツだったものを自分のペースで楽しめる「ひとり〇〇店」は、集団の中に居づらさを感じる人々の受け皿となった。

**問五**　傍線部**B**「公共空間に『ひとり』の居場所が少ないことと、日本の都市では商業空間としての〈ひとり空間〉が多いことは表裏の関係にある」について説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、 **18** 。

①　日本では公的空間ではきちんと振る舞わなければならないという規範意識があり、空間を自由に使いこなすことが出来ない。そのため、人数に関わらず自由に過ごせる空間は一定の金額を支払う「課金空間」に限られる。

②　日本の都市では、日本人の持つ規範意識などを背景に、公共空間を自分の居場所にしづらい。そのため、料金を支払ってでも安心できる〈ひとり空間〉が求められる。

③　欧米では公共空間で人数にかかわらず思い思いに過ごせる感覚があるが、日本では公共空間を自由に使いこなせず、特に大勢では居づらい。そのため仕切りを使って空間を分けた商業空間が増えていったのである。

④　多種多様な人種の人が暮らす海外に比べると日本は同質性が高く、どんな時も集団で過ごすことが普通になっている。そのため、「ひとり」では公共空間にいることが出来ず、特別に課金する商業空間に行かざるを得ないのである。

⑤　人々の差異を当たり前に受け容れる海外と異なり、他者の微細な差異に敏感な日本では、他者の視線を気にする人が多い。そのため、多くの人がいる公共空間よりも閉鎖的な商業空間で過ごす方が好まれるのである。

**問六**　傍線部C「空間とメディアの関係性を二つに分けて整理」とあるが、二つの関係性を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、19 。

① 一つ目は、空間自体がそこに暮らす人のライフスタイルやその店のコンセプトを映し出すメディアとなる「メディアとしての空間」、二つ目は特定のランドマーク等を映し出すことによってイメージを形成する「メディアのなかの空間」である。

② 一つ目は、空間自体がそこに暮らす人のライフスタイルやその店のコンセプトを映し出すメディアとなる「メディアとしての空間」、二つ目は様々なランドマークを映すことによって他の場所のことを忘れさせる「メディアのなかの空間」である。

③ 一つ目は、空間自体が暮らす人のライフスタイルやそこにある店のコンセプトを映し出すメディアとなる「メディアとしての空間」、二つ目は様々な景色を映し出すことによって見ている人に自由にイメージを形成させる「メディアのなかの空間」である。

④ 一つ目は、空間の中に映像を映し出してテレビやSNSのような発信力を持たせる「メディアとしての空間」、二つ目は様々なランドマーク等を映し出すことによってイメージを形成する「メディアのなかの空間」である。

⑤ 一つ目は、空間の中に大きな画面を取り付けテレビやSNSのような発信力を持たせる「メディアとしての空間」、二つ目は様々な景色を映し出すことによって見ている人に自由にイメージを形成させる「メディアのなかの空間」である。

**問七**　傍線部D「これらには、『個人的なものの集団化』という傾向を見てとることができる」の説明として適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、20 。

① ソーシャルメディア上に頻繁にアップされる散歩動画は、「ひとり」になりたいという「切断指向」をアピールするために制作されている。

（次頁に続きます）

② Ｚｏｏｍなどを使用したオンライン・ミーティングは、「みんな」とつながりたいという「接続指向」によって始まった。

③ 自宅の近隣を散歩する動画をＳＮＳ等にアップすることにより、本来個人のものであった散歩中の景色や独り言が集団に共有されることとなった。

④ オンライン・ミーティングでカメラを使うと、初対面の人同士でも互いの個室を覗き合う関係が生じてしまい、参加者にストレスがたまる。

⑤ 「みんな」とつながりたいが「ひとり」にもなりたいという人間の欲求に、自室にいながら参加できるオンライン・ミーティングは適合していると言える。

**問八** 傍線部E「日本の都市およびコロナ禍の〈ひとり空間〉をめぐっては、『集団的なものの個人化』と『個人的なものの集団化』という相矛盾する傾向が生じている。なぜだろうか」とあるが、その答えを説明したものとして、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、 21 。

① コロナ禍ができるだけ人との接触を避けながらも「みんな」とコミュニケーションをはかりたいという欲求を高めた結果、スマートフォンなどのメディアを使って「ひとり」か「みんな」を自分で選ぶ「常時接続社会」を実現させたため

② 様々な社会の変化に対応しながらも、人間は本来誰かとつながりたいがひとりにもなりたい、ひとりでいたいが誰かとつながってもいたいという相矛盾する欲求を持つ生き物であるため

③ 「ひとり」でいることを選ばざるを得なかったコロナ禍が、「みんな」とつながりたいという欲求を高め、「ひとり」よりも「みんな」の状態を選びたいと考える人が多くなったため

④ 「接続指向」と同時に「切断指向」を生んだ「常時接続社会」に、できるだけ人との接触を避けながらも「みんな」とコミュニケーションをはかりたいという欲求を高めるコロナ禍が起き、「ひとり」か「みんな」を自ら選びたいと考える動きが強まったため

⑤ 「常時接続社会」は「接続指向」と「切断指向」を生んだが、そこに〈ひとり空間〉に身を置くことを強制するコロナ禍が起きたことで、「接続指向」に拍車がかかったため

**問九**　本文中の内容に合致するものを、次の①～⑦のうちから**二つ**選びなさい。解答番号は、**22**・**23**（順不同）。

① 晩婚・非婚・離婚による単身者の増加は、カラオケや焼き肉など集団で楽しむことが一般的であったコンテンツを個人でも楽しめる「ひとり〇〇店」が現れたことによって、近年ますます加速している。

② オランダのデルフトやロンドン、ニューヨークの公園や広場においても、日本人はひとりでは居づらく感じてしまい、仕切りのあるレストランやカフェを探すことが多い。

③ 日本の住まいには古くから障子、ふすま、簾など可動性のある仕切りが設けられてきたが、こうした仕切りは他人からの視線をさえぎるものであり、現代の〈ひとり空間〉にも用いられている。

④ 日本の公共空間で「ひとり」の状態になるのは難しく、時間や場所によっては「ひとり」でいては不審者扱いされてしまうこともあるが、スマートフォンを見ていれば目に見えない仕切りを立ち上げることが出来るので安心だ。

⑤ ソーシャルメディアの普及は、社会学者のアーヴィング・ゴッフマンのいう「舞台裏の表舞台化」を生じさせたが、それはまた同時に常に相互監視状態に置かれているストレスを生じさせ、〈ひとり空間〉を生んだ。

⑥ 誰かと好みなどを共有していたいという「接続指向」と、相互監視状態から逃れたいという「切断指向」を生み出した「常時接続社会」は、コロナ禍も加わって今後人々の更なる欲求を生み出すと考えられる。

⑦ 誰かとつながりたいがひとりにもなりたい、ひとりでいたいが誰かとつながってもいたいという人間の欲求が、日本の都市およびコロナ禍の〈ひとり空間〉をめぐる相矛盾した傾向の背後にある。

（次頁に続きます）

## 二

次の問一～問三に答えなさい。

問一　次のA～Eの慣用的表現の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、24～28。

24

A　狐（きつね）につままれた

① 寸借詐欺など、油断に付け込んだ軽い犯罪の被害にあうこと
② 味方だと信頼していた周囲の人が、全員敵であることが分かった時などに使う
③ 周到に仕組まれた罠（わな）に引っかかること
④ 思いがけないことが起こって、わけがわからずぼんやりしている様子
⑤ 相手の言葉や行動に振り回されて、心が落ち着かない様子

25

B　虎（とら）の子

① 強い人の近辺にいつも付き従っている人
② 大切にして手元から離さないもの
③ 親などの権利を利用して大きな態度をとる人
④ 努力なくしては決して手に入らないもの
⑤ いざという時にだけ高い能力を発揮する人

26

C　いたちごっこ

① お互いの底の見えすいた、ばかばかしい物事や振る舞い
② お互いが油断なくじっと相手を見て機会をねらっている様子
③ お互いが同じことを繰り返すばかりで物事が解決しないこと
④ お互いにしかける物事がちぐはぐになること
⑤ お互いをみくびりあって、ばかにし合っている関係性のこと

27

D　馬脚をあらわす

① 隠していた正体や悪事がばれること
② 学識・才能などが群を抜いて目立ってくること
③ 足の速い人のたとえに使う
④ 隠していた真の実力が発揮されること
⑤ 肝心な部分が隠しきれていないことに気付かない様子

28

E　虫がいい

① 機嫌がいい
② 腹八分でちょうどいい
③ 縁起がいい
④ ずうずうしい
⑤ 快晴の知らせ

問二　次のA～Eの二つの語は、それぞれどのような関係ですか。対義語の場合は①、類義語の場合は②、どちらでもない場合は③を選びなさい。解答番号は、29～33。

29　A　促進―抑制

30　B　熟読―精読

31　C　没頭―専念

32　D　休養―素養

（次頁に続きます）

33　E　厚意―薄利

**問三**　次のコラムは、▶を付した最初と最後の段落以外は順序が正しくありません。これを読んで、後の問いに答えなさい。

▶　新年度から新たに外国語を学び始めた方も多いと思う。気休めにはならないだろうが、語学習得を趣味とする欧州人の友達によると「日本語の文字体系は世界一難しい」そうだ。ほら、と示された新聞の見出しは「チャットGPT　利用ルールの議論急げ」。

①　録音がない時代の音声を特定するのは、なぞ解きのようで面白い。文字から音を得たのは、言語学者らによる努力のたまものだ。中国の音韻の古い資料や、ローマ字で表記したキリスト教宣教師の文献などをもとに研究を重ねてきた。

②　同著によると、音声は伝えたい情報量が同じならば省エネの方へ向かうのだとか。奈良時代には「ア」と「エ」の中間のような音などもあり母音は八つだったが、うち三つが消えた。小さなきっかけでI地滑り的に変化することがあるのだ。

③　たとえば、奈良時代のハ行は「パピプペポ」で、平安時代は「ファフィフェフォ」だったという。母はパパからファファへ変わり、18世紀前半にハハとなった。サ行も違い、「笹の葉」は「ツァツァノパ」だったそうだ。

④　ひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字。4種類の文字を使い分ける言語は、世界でも類がないとされる。話す方はどうかと、千年以上の歴史をたどった『日本語の発音はどう変わってきたか』（釘貫亨著）を読んだ。

▶　発音とはかくもダイナミックに変わるのか。驚きつつも、語学で苦労してきた身としてつい、思ってしまった。昔のままだったら、微妙な外国語の発音もできていたかな。

（朝日新聞２０２３年４月22日　承認番号（24-1068）※朝日新聞社に無断で転載することを禁止する）

（1）それぞれの段落を正しく並べると、順序はどうなりますか。それぞれの位置に入る最も適当なものを、①～④のうちから一つずつ選びなさい。（完全解答）解答番号は、34～37。

▼最初の段落―（ 34 ）―（ 35 ）―（ 36 ）―（ 37 ）―▼最後の段落

（2）傍線部Ⅰ「地滑り的に変化する」の本文中の意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選びなさい。解答番号は、38。

① 状況が突如として逆転する
② 状況が不可逆的に変容する
③ 状況が非常な速さで進む
④ 状況が連動して展開する
⑤ 状況が大きく変動する

**以上で問題は終わりです。**